



県内主要産業の動向

2018年2・3月

◎順調 ○まずまず ◐やや低調 ●不調

業種	景況			コメント
	18年1月	18年2月	先行き	
金属洋食器	●	●	→	受注は低調に推移。ただし、「ふるさと納税」の返礼品受注に対応するため繁忙な先もある。そうした中、国内外の展示会への出展や首都圏のホテルでのイベントに参加し、技術力のPRや需要喚起を図る。また、組合が中心となり後継者育成のための勉強会を開催する動きもみられる。
金属 ハウスウェア	●	●	→	受注は前年並みで推移。用途により明暗が分かれており、飲食店やホテル向けなどの業務用や家庭用の商品は動きが鈍い。一方、企業のノベルティ向けの商品は引き続き堅調な模様。海外の日本食ブームを受けて、欧米への包丁や鉄鍋などの輸出が好調な先もみられる。
作業工具	◐	◐	→	国内販売は、春先の需要期に向けて生産、販売共に上がり基調。建築関連工具が堅調を維持。各製造工場でのトルクレンチ需要も続く。輸出は東南アジア各国の旧正月が終わり中国を中心に復調。そうした中、相応の受注量があるものの、人手不足のため生産に課題を抱える業者も。
電子部品 ・デバイス	○	○	→	受注は総じて好調に推移。半導体関連では、半導体素材の受注が引き続き堅調。電子部品関連では、半導体製造装置向けは好調であるが、携帯端末向けで需要に一服感もみられる。足下の受注は好調だが、円高や貿易摩擦への懸念などから、先行きについては慎重にみる向きもある。
鋳物	○	○	→	受注は堅調に推移。半導体製造装置・自動車などが引き続き好調で、これまで鈍かった航空機や船舶にも動きが出てきた。中国の環境規制強化を背景に、先行きも強気に見る向きが多い。一方で、銑鉄など原材料の価格高騰に加え、部材の確保難を指摘する声も出ている。
金型	○	○	→	受注は堅調を維持。自動車関連や首都圏向けビル建材が引き続き好調。また、半導体関連にも動きが出てきた。機械部品の量産需要を背景に、新規の試作・見積り依頼も増加傾向にあるが、短い納期限や価格交渉の面で折り合わず、不調に終わるケースもみられる。
一般機械	○	○	↗	内需・外需とも自動車部品、半導体製造装置、建設機械を中心に高水準の受注が続く。生産設備の複合化や自動化ニーズの高まりを受け、今後も好調を維持するものとみられるが、リニアガイド、ボールねじといった部品調達難が深刻化しており、影響が大きくなりつつある。



業種	景況			コメント
	18年1月	18年2月	先行き	
絹織物	●	●	→	十日町産地では、受注量は前年を下回る水準。原材料である生糸価格が高止まっているが、製品への価格転嫁は難しく収益を圧迫している。一方、産地では春先にかけて工場見学など複数のイベントを集中開催することで、需要の開拓を狙う。五泉産地は、主力の白生地の生産が僅かに前年を上回った。
合織織物	●	●	→	春物生産は終了。通常、秋物の受注の時期だが、納入先のアパレルや生地問屋の意向により明暗が分かれる状況に。オーダーは、相変わらず小ロットで納期がタイトなものが多い。事前準備や作業工程の労力、コストを考慮すると採算面は非常に厳しいとの声も聞かれた。
ニット	●	●	→	春物生産は終盤。店頭的好調を受け、春物受注は滑り出し堅調であったが、追加受注に乏しく、生産終了が早まる見通し。足下では、秋冬物の展示会が始まったが、アパレルからの反応は鈍く、先行きの受注は不透明。そうした中、見附産地では2月に「ニット感謝祭」が開催され大勢の来場者で賑わった。
木工家具	●	●	→	業務用は、飲食店を中心とした店舗関連の他、マンション据付用家具にも動きがあり繁忙感が続く。春先の商戦向け受注も例年より早い動き出しがみられる。一方、家庭用は、受注確保に依然苦慮。組合は製品PRのため恒例の大型催事に参加するが、エンドユーザーの関心は小物類にとどまる。
清酒	●	●	→	2月の出荷量は前年を下回った。県外向けはほぼ前年並みであったが、県内向けが大雪による影響で業務用を中心に大きく落ち込んだ。酒類別では、吟醸酒などの特定名称酒が不振。出荷が伸び悩む中、足下では、各酒蔵とも春向け商品の開発により需要喚起に努めている。
米菓	◐	◐	↗	2月の売上は前年並みを確保。定番品や季節限定商品などが堅調だった。3月は春の行楽シーズンを前に各社とも新商品を発売し、順調に推移。そうした中、一部のメーカーでは消費者の健康志向の高まりを受け、ヘルスケア分野など新たな事業展開を強化する動きがみられる。
建設	◐	◐	→	公共工事は、国や市町村の発注減により低下基調が続く。前年の補正予算執行の反動減も要因。民間工事は、大型工事が少なく盛り上がりには欠ける状況。住宅建設は、持家の着工が弱含みで推移。貸家は相続税対策の一巡により落ち込みが続いている。
大型小売店	◐	◐	→	2月の売上は前年並みを確保。前半は大雪で客足が伸び悩んだものの、後半は食品などが堅調だった。バレンタインデーもまずまず。3月は気温上昇とともに衣料品に動き。新生活用の寝具なども堅調。家電量販店では冷蔵庫などの白物家電に加え、4Kテレビなどにも動きがみられる。